

DVに関するアンケート調査の結果について

県では、DVに関する県民の意識、実態、要望等を調査し、課題や県民ニーズを把握することを目的として、「DVに関するアンケート調査」と「デートDVに関するアンケート調査」を実施しました。

調査結果は、平成30年度における「ぐんまDV対策推進計画（第4次）」の策定や、今後の政策立案の参考資料とする予定です。

なお、「デートDVに関するアンケート調査」は、今回初めて実施しました。

I 調査の概要

区 分	(1)DVに関するアンケート調査	(2) デートDVに関するアンケート調査
① 調査対象	県が主催する講座等の参加者	県が実施するデートDV防止啓発講座の受講者（中学生、高校生、大学生）
② 回答人数	2,150人	1,754人
③ 調査方法	参加者へアンケート配布・回収	受講者へアンケート配布・回収
④ 調査期間	平成29年9月～平成30年3月	平成29年9月～平成30年3月

※前回の「DVに関するアンケート調査」は、平成26年11月21日～平成26年12月5日に「男女共同参画社会に関する県民意識調査」の一部の項目として実施した。

II 調査結果のポイント

1. DVに関するアンケート調査 ()内は前回調査の数値

(1) DV被害・加害経験

<被害経験>

ある 14.4% (16.7%)

なし 85.1% (83.3%)

<加害経験>

ある 8.0% (8.5%)

なし 89.8% (91.5%)

※約7人に1人が被害経験があると回答している。

＜被害種類別＞ ※全員が以下の項目についてそれぞれ回答。数値は「1度でも被害がある」と回答した人の割合。

「精神的な暴力・社会的な暴力」（暴言、長時間の無視、怒鳴る等）	9.1%（13.2%）
「身体的な暴力」（なぐる、ける、物を投げつける等）	4.7%（4.9%）
「ストーカー行為」（つきまとい、待ち伏せ、押しかけ、監視等）	3.5%（2.7%）
「性的な暴力」（性的行為の強要、ポルノビデオや雑誌を見せる等）	2.7%（2.6%）
「経済的な暴力」（生活費を入れない、仕事を辞めさせる等）	2.3%（2.4%）

※依然として、「精神的な暴力・社会的な暴力」の割合が最も高くなっている。

（2）被害を受けた時の相談相手（複数回答）

- ・「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」 50.7%（53.6%）
〈男女別内訳〉 女性：39.4%（45.4%）、男性：82.9%（66.7%）
 - ・「知人・友人」 27.7%（21.4%）
 - ・「家族や親戚」 20.3%（21.9%） など
- ※「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」が半数を超えている。また、男性は女性に比べ、「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」割合が2倍以上となっている。

（3）相談しない理由（複数回答）

- ・「相談するほどのことではないと思うから」 46.7%（52.4%）
 - ・「自分さえがまんすれば、何とかこのままやっていけると思うから」 18.0%（21.4%）
 - ・「相談してもむだだと思うから」 18.0%（12.6%） など
- ※「相談するほどのことではないと思うから」、「自分さえがまんすれば、何とかこのままやっていけると思うから」など相談することに対して消極的な回答が多い。

（4）DV被害者支援制度等の認知度（複数回答）

- ・「ストーカー規制法」 50.7%（47.7%）
 - ・「警察における相談窓口」 45.0%（43.3%）
 - ・「DV防止法」 39.4%（33.2%） など
 - ・「いずれも知らない」 9.7%（20.5%）
- ※「ストーカー規制法」の割合が最も高く、「いずれも知らない」が約1割となっている。

（5）暴力を防止し、よりよい関係を築いていくために必要なこと（複数回答）

- ・「相談体制の充実」 50.0%
 - ・「加害者に対するカウンセリング」 35.9%
 - ・「学校教育の充実」 30.9% など
- ※相談することに消極的な回答が多い一方で、暴力を防止するためには「相談体制の充実」が最も求められている。

2. デートDVに関するアンケート調査

(初めての調査)

(1) デートDVの認知度

- ・「知っていた」 55.2%
- ・「知らなかった」 43.9%

※半数以上が「知っていた」と回答しているが、「知らなかった」も4割以上となっている。

(2) デートDVの経験

- ・「相手から受けたことがある」 8.8%
- ・「相手にしたことがある」 2.7%
- ・「どちらもない」 90.8%

※DVの被害経験・加害経験より低いものの、被害・加害ともに見受けられる。

(3) デートDVの被害

(複数回答)

<被害経験> ※(2)で「相手から受けたことがある」と答えた人が回答

- ・「メールや通話の相手のチェック、友人との付き合いの制限」(精神的暴力) 53.8%
- ・「バカにされる、傷つくことを言われる、どなられる」(精神的暴力) 36.9%
- ・「しつこく電話やメール、待ち伏せやつきまとい」(ストーカー行為) 46.2%
- ・「キスや性的なことを強要」(性的暴力) 32.3%
- ・「なぐる、つねる、ける、物を投げつけられるなど」(身体的暴力) 23.1%
- ・「お金を返さない、取り上げられる」(経済的暴力) 12.3%

※DVの被害同様、「精神的な暴力」が最も多くなっている。次いでDVの被害は「身体的な暴力」、デートDVの被害については「ストーカー行為」の順に多く、「身体的な暴力」は順位が低い特徴が見られる。

(4) デートDVを受けたとき、相談したか

- ・「相談した」 27.7%
- ・「相談しなかった」 64.6%

※「相談しなかった」が6割を超えており、DV被害の割合(50.7%)より高くなっている。

(5) 相談しなかった理由

(複数回答)

- ・「自分がガマンすればいいと思ったから」 47.6%
- ・「相手のことが好きだから」 38.1%
- ・「デートDVであると気付かなかったから」 33.3% など

※「自分がガマンすればいいと思ったから」が最も高いほか、「相手のことが好き」や「デートDVであると気付かなかった」などの割合も高く、若年層に特徴的な傾向が見られる。